

異文化理解のためにコミュニケーションは必要不可欠である。しかし、それには個人の持つ文化的背景が大きな影響を及ぼすことを認識しておくべきであると筆者は述べています。相互理解を深めるために必要な、客観的に物事を考える力を養う一助となると思いますが。

読書は、物の見方・考え方を幅広くできるもので、自分を見つめ直すいい機会になると思います。機会を見つけてこれからも読書をして、自分自身を成長させていくください。(加藤優子著 三恵社)

『風の谷のナウシカ 全7巻』

生徒指導主事 村石 忠之 先生

「名著とは何度読んでも新たな発見がある書物である」という定義にしたがえば、これはまさしく「名著中の名著」である。もちろんこれは漫画。だから最初からずっと読める。でもね、成長にしたがって、社会情勢の変化にしたがって、読み取れることがどんどん増える。現在の混沌としたこの状

況だからわかることもある。ぜひ手に取って読みこんでほしい。

(宮崎駿著 徳間書店)

『本当の自由を手にいれる』

お金の大学

三年一組担任 太田 有亮 先生

日本の学校はいまだに「お金なんて教育にふさわしくない」という考えにしばられているように感じます。実際、先生もお金について真剣に勉強したのは三十歳を過ぎてからです。しかし、人生100年時代に突入したと言われ、「その後2000万問題」が多くの人の関心を高めている昨今、お金に縛られない人生を送るためにも、お金の勉強は必須だと先生は思っています。

本書は、基本的なお金にまつわる知識を分かりやすく教えてくれるだけでなく、著者はYouTubeでの動画配信も行っており、手軽にお金について学ぶことができます。ぜひ、社会人になる前に、一度「真剣に」お金について考えるのはいかがでしょうか？

(岡@リベ大学長著 朝日新聞出版)

『走れ！1校バスケット部』

三年二組担任 野村 卓也 先生

常滑高校の図書館で出会い、朝読の時間や空き時間を使い全10巻を読み終えました。筆者の松崎洋さんの息子の経験をモチーフに、スポーツやいじめ、教育などさまざまな側面からの成長が描かれています。考えることや温かい気持ちになったりできる良い作品です。おすすめです！

(松崎洋著 彩雲出版)

『まく子』

三年三組担任 鬼頭 孝子 先生

「変わってるよね」って人から言われたらどう思いますか？ 私は嬉しいです。でも、十代の私なら嫌だったと思います。西加奈子さんの本の登場人物は、「変わった人」が多いです。「変わった人」に対して愛情をもって描かれているところが好きです。

クラスにはいろんな生徒がいます。みんな他の人とは変わっています。でもみんな私にとって愛おしい存在です。一人一人大事な存

在だから、自分の人生を大事にして生きていくってください。

(西加奈子著 福耳館書店)

『読書する人だけが』

たどり着ける場所

三年四組担任 五味 雅貴 先生

子供の頃は読書が嫌いでしたが、大学生後半から本を読み始め、読書に対する初めのモチベーションは、知識を深めることでした。

読書を続けるうちに、何事も自分事として考えるところが習慣が確立し、思考が深まる感覚を肌で感じていました。最近では、読書ノートを作成してしまっただけになり、幼い頃の自分からは想像ができません。しかし、いくら「読書の先に何かがあるか」を語っても、なかなか伝わらないだろうと思っっています。

私が感じた読書の大切さ、読書から得られる感覚、そして読書に対する思いを、教育界の権威である齋藤孝さんの言葉に託したいと思います。

(齋藤孝著 新書)

